【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成26年1月30日(2014.1.30)

【公開番号】特開2013-144196(P2013-144196A)
【公開日】平成25年7月25日(2013.7.25)
【年通号数】公開・登録公報2013-040
【出願番号】特願2013-91980(P2013-91980)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３２０

【手続補正書】
【提出日】平成25年12月10日(2013.12.10)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
始動条件の成立にもとづいて、各々を識別可能な複数種類の識別情報の可変表示を行う可変表示手段と、該識別情報の可変表示の表示結果が導出されるまでに、遊技者にとって有利な特定遊技状態を発生させる特定表示結果とするか否かを決定する事前決定手段と、該事前決定手段が前記特定表示結果とする旨を所定の通常確率で決定する通常遊技状態または前記事前決定手段が前記特定表示結果とする旨を前記通常確率よりも高い確率で決定する高確率遊技状態のいずれかに遊技状態を制御する遊技制御手段と、を備え、前記識別情報の可変表示の表示結果が前記特定表示結果であるときに前記特定遊技状態となるとともに、所定の潜伏条件が成立したことに応じて、その後の遊技状態が、前記通常遊技状態或いは前記高確率遊技状態のいずれかに前記遊技制御手段により制御される遊技機であって、
少なくとも前記事前決定手段が前記識別情報の可変表示の表示結果を前記特定表示結果とすると決定したときに、所定の可変表示パターンよりも決定されやすい特殊可変表示パターンを含む複数種類の可変表示パターンのうちから、前記識別情報の可変表示パターンを前記事前決定手段の決定結果にもとづいて決定する可変表示パターン決定手段と、
前記可変表示パターン決定手段が決定した前記可変表示パターンにもとづいて、前記識別情報の可変表示を実行する可変表示実行手段と、
前記事前決定手段が前記識別情報の可変表示の表示結果を前記特定表示結果としないと決定したときに前記可変表示パターン決定手段が前記可変表示パターンを決定するために用いるはずれ決定用テーブルであって、前記特殊可変表示パターンに対する決定確率が第１確率に設定された第１決定用テーブルと、前記特殊可変表示パターンに対する決定確率が前記第１確率よりも高い第２確率に設定された第２決定用テーブルと、を記憶する決定用テーブル記憶手段と、
前記潜伏条件が成立してから前記識別情報の可変表示の実行回数である成立後回数を計数する成立後回数計数手段と、
前記潜伏条件の成立に際して、前記はずれ決定用テーブルを変更する時点の前記成立後回数であるテーブル変更回数を決定するテーブル変更回数決定手段と、
前記潜伏条件が成立する前においては、前記はずれ決定用テーブルとして前記第１決定用テーブルを選択し、前記潜伏条件の成立後においては、前記成立後回数が前記テーブル

変更回数決定手段にて決定されたテーブル変更回数に到達していないことを条件に、前記はずれ決定用テーブルとして前記第２決定用テーブルを選択するテーブル選択手段と、
遊技媒体が入賞しやすい開状態と入賞しないまたは入賞しにくい閉状態とに変化するとともに、前記特定遊技状態において開状態に制御される特別可変入賞装置と、
前記特別可変入賞装置の動作を制御する手段であって、前記潜伏条件の成立直後の遊技状態にかかわらない同一態様にて、前記特別可変入賞装置を開閉する制御を行う特別可変入賞装置制御手段と、
前記特別可変入賞装置制御手段により前記特別可変入賞装置を開閉する制御を行う場合、前記潜伏条件の成立直後の遊技状態が、前記通常遊技状態であるか前記高確率遊技状態にかかわらず、同一の演出を実行する演出実行手段と、
を備え、
前記可変表示パターン決定手段は、前記事前決定手段が前記識別情報の可変表示の表示結果を前記特定表示結果としないと決定したときに、前記テーブル選択手段により選択された前記第１決定用テーブルまたは前記第２決定用テーブルに基づいて前記可変表示パターンを決定する、
ことを特徴とする遊技機。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
前記課題を解決するために、本発明の請求項１に記載の遊技機は、
始動条件の成立（第１始動入賞口１３に始動入賞したこと。第２始動入賞口１４に始動入賞したこと）にもとづいて、各々を識別可能な複数種類の識別情報（第１特別図柄、第２特別図柄）の可変表示を行う可変表示手段（第１特別図柄表示器８ａ、第２特別図柄表示器８ｂ）と、該識別情報の可変表示の表示結果が導出されるまでに、遊技者にとって有利な特定遊技状態（例えば、大当り遊技状態）を発生させる特定表示結果（例えば、大当り表示結果）とするか否かを決定する事前決定手段（遊技制御用マイクロコンピュータ５６０において、ステップＳ６１，Ｓ６２，Ｓ７３を実行する部分）と、該事前決定手段が前記特定表示結果とする旨を所定の通常確率（例えば、１／３９９）で決定する通常遊技状態（通常状態）または前記事前決定手段が前記特定表示結果とする旨を前記通常確率よりも高い確率（例えば、１／４０）で決定する高確率遊技状態（確変状態（高確率状態））のいずれかに遊技状態を制御する遊技制御手段（遊技制御用マイクロコンピュータ５６０において、ステップＳ１５５～１５７、Ｓ３０７を実行する部分）と、を備え、前記識別情報の可変表示の表示結果が前記特定表示結果であるときに前記特定遊技状態となるとともに、所定の潜伏条件（確変大当りＢを契機とする大当り遊技が終了すること、小当りを契機とする小当り遊技が終了すること）が成立したことに応じて、その後の遊技状態が、前記通常遊技状態或いは前記高確率遊技状態のいずれかに前記遊技制御手段により制御される遊技機（パチンコ遊技機１）であって、
少なくとも前記事前決定手段が前記識別情報の可変表示の表示結果を前記特定表示結果とすると決定したときに、所定の可変表示パターンよりも決定されやすい特殊可変表示パターン（スーパーリーチ）を含む複数種類の可変表示パターン（変動パターン）のうちから、前記識別情報の可変表示パターンを前記事前決定手段の決定結果にもとづいて決定する可変表示パターン決定手段（遊技制御用マイクロコンピュータ５６０において、ステップＳ３０１を実行する部分）と、
前記可変表示パターン決定手段が決定した前記可変表示パターンにもとづいて、前記識別情報の可変表示を実行する可変表示実行手段（遊技制御用マイクロコンピュータ５６０において、ステップＳ３０３を実行する部分）と、
前記事前決定手段が前記識別情報の可変表示の表示結果を前記特定表示結果としないと

決定したときに前記可変表示パターン決定手段が前記可変表示パターンを決定するために用いるはずれ決定用テーブルであって、前記特殊可変表示パターンに対する決定確率が第１確率に設定された第１決定用テーブル（はずれ用変動パターン種別判定テーブルＡ１３５ａ、はずれ用変動パターン種別判定テーブルＢ１３５ｂ）と、前記特殊可変表示パターンに対する決定確率が前記第１確率よりも高い第２確率に設定された第２決定用テーブル（はずれ用変動パターン種別判定テーブルＣ１３５ｃ）と、を記憶する決定用テーブル記憶手段（ＲＡＭ５５）と、

前記潜伏条件が成立してから前記識別情報（第１特別図柄、第２特別図柄）の可変表示の実行回数である成立後回数を計数する成立後回数計数手段（遊技制御用マイクロコンピュータ５６０において、ステップＳ１５２，１５３を実行する部分）と、

前記潜伏条件の成立に際して、前記はずれ決定用テーブルを変更する時点の前記成立後回数であるテーブル変更回数を決定するテーブル変更回数決定手段（遊技制御用マイクロコンピュータ５６０において、ステップＳ３００を実行する部分）と、

前記潜伏条件が成立する前においては、前記はずれ決定用テーブルとして前記第１決定用テーブルを選択し、前記潜伏条件の成立後においては、前記成立後回数が前記テーブル変更回数決定手段にて決定されたテーブル変更回数に到達していないことを条件に、前記はずれ決定用テーブルとして前記第２決定用テーブルを選択するテーブル選択手段（遊技制御用マイクロコンピュータ５６０において、ステップＳ３０１を実行する部分）と、

遊技媒体が入賞しやすい開状態と入賞しないまたは入賞しにくい閉状態とに変化するとともに、前記特定遊技状態において開状態に制御される特別可変入賞装置と、

前記特別可変入賞装置の動作を制御する手段であって、前記潜伏条件の成立直後の遊技状態にかかわらない同一態様にて、前記特別可変入賞装置を開閉する制御を行う特別可変入賞装置制御手段と、

前記特別可変入賞装置制御手段により前記特別可変入賞装置を開閉する制御を行う場合、前記潜伏条件の成立直後の遊技状態が、前記通常遊技状態であるか前記高確率遊技状態にかかわらず、同一の演出を実行する演出実行手段と、

を備え、

前記可変表示パターン決定手段は、前記事前決定手段が前記識別情報の可変表示の表示結果を前記特定表示結果としないと決定したときに、前記テーブル選択手段により選択された前記第１決定用テーブルまたは前記第２決定用テーブルに基づいて前記可変表示パターンを決定する、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、所定の潜伏条件の成立後に高確率遊技状態となった場合において、表示結果が特定表示結果になる確率が高まることで、表示結果が特定表示結果となる場合に所定確率で決定される特殊可変表示パターンが出現したときの信頼度が著しく高まってしまうことにより、これら特殊可変表示パターンが出現した場合には特定表示結果となることがほぼ確実となってしまい興趣が低下してしまうが、表示結果が特定表示結果とならない場合において使用されるはずれ決定用テーブルとして、特殊可変表示パターンに対する決定確率が高い第２確率とされた第２決定用テーブルが選択されて変表示パターンが決定されるので、表示結果が特定表示結果にならないと決定された場合においても、特殊可変表示パターンが出現しやすくなる。よって、所定の潜伏条件が成立した後において特殊可変表示パターンが出現したときの信頼度を適度に抑制することができるため、遊技の興趣低下を回避できる。また、所定の潜伏条件の成立直後の遊技状態が通常遊技状態か高確率遊技状態かにかかわらず、第２決定用テーブルが選択される期間となるテーブル変更回数が変わるので、潜伏条件の成立直後の遊技状態が通常遊技状態であるか高確率遊技状態であるのかを、遊技者が判別し難くできるので、遊技の興趣を向上させることができる。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１３
【補正方法】変更

【補正の内容】
【００１３】
本発明の手段１に記載の遊技機は、請求項１に記載の遊技機であって、
前記可変表示パターン決定手段（遊技制御用マイクロコンピュータ５６０において、ステップＳ３０１を実行する部分）は、前記通常遊技状態（通常状態）における前記可変表示パターン（変動パターン）として、前記事前決定手段（遊技制御用マイクロコンピュータ５６０において、ステップＳ６１，Ｓ６２，Ｓ７３を実行する部分）が前記識別情報の可変表示の表示結果を前記特定表示結果とすると決定したときに、前記特殊可変表示パターン（スーパーリーチ）を決定する前記所定確率（確変大当りＡ用変動パターン種別判定テーブルにおけるスーパーＣＡ３－３に対して割り当てられている判定値数に基づく確率（１７２／２５１））よりも低い確率で特別可変表示パターン（ノーマルリーチ）を決定可能であるとともに、前記事前決定手段が前記識別情報の可変表示の表示結果を前記特定表示結果としないと決定したときには、前記第１決定用テーブル（はずれ用変動パターン種別判定テーブルＡ１３５ａ、はずれ用変動パターン種別判定テーブルＢ１３５ｂ）に基づいて、前記特殊可変表示パターンを決定する確率よりも高い確率で前記特別可変表示パターン（ノーマルリーチ）を決定可能であり、
前記第１決定用テーブルと前記第２決定用テーブル（はずれ用変動パターン種別判定テーブルＣ１３５ｃ）は、いずれも、前記特別可変表示パターンに対する決定確率が設定されており、前記第２決定用テーブルにおける前記特別可変表示パターンに対する決定確率が、前記第１決定用テーブルにおける前記特別可変表示パターンに対する決定確率と同一或いは低い（ノーマルＣＡ２－４、ノーマルＣＡ２－５に対して割り当てられている判定値数が少ない）、
ことを特徴としている。
この特徴によれば、表示結果が特定表示結果となるときに特殊可変表示パターンよりも出現頻度が低く、表示結果が特定表示結果とならないときに特殊可変表示パターンよりも出現頻度が低いことで、特殊可変表示パターンよりも出現時の信頼度が低い特別可変表示パターンの出現頻度が、特殊可変表示パターンと同様に、表示結果が特定表示結果とならないときに高まることがないので、これら出現時の信頼度が低い特別可変表示パターンが多く出現してしまうことによる興趣の低下を防止でき、よって、所定の潜伏条件が成立した後における遊技の興趣を向上させることができる。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１４
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１４】
本発明の手段２に記載の遊技機は、請求項１または手段１に記載の遊技機であって、
前記可変表示パターン決定手段（遊技制御用マイクロコンピュータ５６０において、ステップＳ３０１を実行する部分）はさらに、前記特殊可変表示パターン（スーパーリーチ）として、前記通常遊技状態（通常状態）において前記事前決定手段（遊技制御用マイクロコンピュータ５６０において、ステップＳ６１，Ｓ６２，Ｓ７３を実行する部分）が前記識別情報の可変表示の表示結果を前記特定表示結果（例えば、大当り表示結果）とすると決定したときに決定される当選時決定確率に対する、前記通常遊技状態において前記事前決定手段が前記識別情報の可変表示の表示結果を前記特定表示結果としない（例えば、はずれ表示結果）と決定したときに決定される非当選時決定確率の比率に基づく出現時信頼度（９７、７％）が高い第１特殊可変表示パターン（スーパーリーチＣ）と、前記出現時信頼度が前記第１特殊可変表示パターンよりも低い（１．３％、２．４％）第２特殊可変表示パターン（スーパーリーチＡ，Ｂ）と、を決定可能であり、
前記第２決定用テーブル（はずれ用変動パターン種別判定テーブルＣ１３５ｃ）においては、前記第２特殊可変表示パターンに対する決定確率を高める（スーパーＣＡ２－７に対

する判定値数を多くする）ことにより、特殊可変表示パターンに対する決定確率が前記第２確率とされている、

ことを特徴としている。

この特徴によれば、所定の潜伏条件が成立した後は、第１特殊可変表示パターンよりも出現時信頼度が低い第２特殊可変表示パターンの出現頻度が高まるため、第１特殊可変表示パターンの信頼度が著しく低下してしまうことを防止できる。